

七月例会御案内

(平成二十六年・第六四五回)

公益財団法人 協和協力会
<http://www.kyowakkyo.or.jp>

<http://www.kyowakyokai.or.jp>

○
御案内
（月）正午二時半
長明の成

第十一屆全國人民代表大會第五次會議

（青原記）
松山健士先生（内閣府事務次官・内閣府前官房長・元審議官）
私は、安倍総理の主導するアベノミクスをなんとか成功させたいと念じております。と申しますのは、もし、失敗となれば、それは、日本の経済的崩壊につながるからです。これまでも、アベノミクスを成功させるために、各分野の方々の御意見をうかがい勉強してきました。政治家の方々もそれぞれに勉強しておられます。行政府、特に、内閣府は、昨年十月に、当時の松元崇内閣府事務次官様に御講話いただいて感じましたが、内閣総理大臣に御進言し、また、直接の御指示をいただき、そして、その政策を行政府として執行しておられるだけに、情況を最もよく把握されておられます。そこで今回、本年一月から、内閣府事務次官に就任されておられる松山健士先生に、御解説をいただきます。重要課題、万障繰り合わせ御参加を！

○ 当日の会費 四千円（昼食代ほか。七月二十五日金曜までに、出欠の返信をいただきたく）
□ 御報告 当日連絡先 080-8836-6203・重田 080-9292-2620・高津

去る六月二十四日の月例会は、『アメリカの成長戦略の分析・解説！』——アベノミクスを成功させるために——と題して、橋本久義先生（政策研究大学院大学名誉教授、元経済産業省・中小企業庁技術課長・工業技術院総括研究開発官）に、御講話をいただきました。その要旨は、お集まりの皆様は、アベノミクスを如何にして成功させるかに強い御関心をお持ちですが、私は経済産業省出身なので、その面から申し上げると、昨年から、国は中小企業の活性化こそ成長の鍵と考え、中小企業一万家を対象に、試作開発補助金として一千万円づつ提供してきており、今年は一千五百万円に増額した。それがこの九月頃から効果を現すだろう。これらの施策は、停滞時のアメリカを活性化させたシリコンバレー方式を採用するものといえる。そこは、カリフォルニア州のサンフランシスコ湾の南西部にあるスタンフォード大学を中心とする十一市街地一帯のこととで、「サンタクララバレー」と称呼されており、シリコンバレーという地名があるわけではない。アメリカ東海岸にはすでにボストンといった産業都市が

あり、ボストン大学が有名であるが、スタンフォード大学はこれに対抗するため、その裏手にスタンフォード工業団地を造り、特に一九六〇年代から、シリコンを主原料とするIC（集積回路）半導体を研究・生産するマイクロエレクトロニクス関連企業が、一挙に進出してきたのが、「シリコンバレー」の名称を用いた最初だといわれる。

こうして、シリコンバレーには、次第に各種のIT企業が集まってきて、アメリカ繁栄の基礎を創ったわけだ。特に、スタンフォード大学は、そこで学んだ発想豊かな若者を育てる方針を立て、また、それを応援する資産家を求め、そうした若者を、事業家へと育て上げるという「産学共同」を大学の精神・方針とした。例えば、大学で音波測定用の音声発振器を研究していたヒューレットとパッカードを支援して成功させ、これはディズニー製作の「ファンタジア」に採用され、この二人は大資産家になった。その他も、「シリコングラフィックス」社を創ったジム・クラークや、「ヤフー」を創ったジェリー・ヤンなど、沢山の人材が育っている。私は、日本にこの方式を取り入れたい、と熱弁を振るわれ、一同、聞きほれました。（清原記）

当（公財）協和協会は「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に國家的見地から、我が國立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によつて創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣。平成二十一年六月より会長代行として江口一雄元衆議院議員が就任。理事長は引き続き半田晴久が就任している。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっている。国会議員・同秘書は、隨時参加自由。この月例講話会のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百三十七本に達している。

事務局電話（03）355811192

添付のハガキ又はFAXにて、七月二十五日（金）までに、事務局へ御返信をいただきたい。

御芳名

七月二十八日(月)正午出

衆議院第一議員会館 地下一階・第一会議室

貴方様のFAX番号